

■岡田嘉子 俳優。性の遍歴の末、ソ連に逃亡、(敗戦)後も現地に留まり、演劇を学び直して演出家としても成功した。

おかだよしこ

教科書疑獄・1902＝ 広島市大手町で、名家ながら没落したため新聞記者となった父と投書の縁で結ばれた母の娘に生まれる。
日比谷公園・1903＝ 1歳：妹が誕生直後に死去、その後母も子ができなくなって、一人っ子に育ち、

日露戦争終・1905＝ 3歳：

わがまま気楽に生きる父に苦労しながら、生活を支える母とは姉妹のような関係となる。

小学校を8度も変わるうち、_芝居好きの両親や演劇革新運動の影響で、演劇への心が芽生え、

大逆事件判決1911＝ 9歳：

明治天皇没・1912＝10歳：

過保護で虚弱のため、学校を休んで本を読んでばかりいたため、琴を学ばせられるものにならず、児童画家について絵を習い、東京女子美術学校の西洋画科本科に入学したが、結局浅草に通って芝居を見、北海道小樽に赴任した父に従うも、自由な生活に憧れ、説得して単身東京に戻って卒業、再び小樽に渡り、父の新聞社に務めるうち、父がカンパのために催物を企画、若い社員により芝居となり、出演して好評を得たことに便乗、両親を説得して、_ついに演劇の道に乗り出し、

本格政党内閣1918＝16歳：

ベルリン条約・1919＝17歳：

大暴落・・・1920＝18歳：

原敬首相暗殺1921＝19歳：

水平社結成・1922＝20歳：

関東大震災・1923＝21歳：

和歌山時代に知り合った_劇作家中村吉蔵に入門、許可を得て_(新文芸協会)にも参加し、
坪内逍遙の「法難」の端役で初舞台、続く代役で認められ、旅修行に参加し、性の過ちを犯す。
*(新文芸協会)の後を受けた山田隆弥主宰(舞台協会)公演「出家とその弟子」の芸妓楓で一躍脚光をあびる。
{舞台協会}と{日活}の提携による「髑髏の舞」で_映画にも初出演。山田と関係し、病気になるほど熱中、
<関東大震災>で劇団が壊滅的打撃を受けるも、皆で凌いで公演する一方、勧められて藤蔭静樹に入門、以後可愛がられる間、ついに{舞台協会}が経営に行き詰まり、
_劇団の多額の負債を返済するため{日活}に入り、村田実監督「街の手品師」、
溝口健二監督「狂恋の女師匠」、
{文芸春秋}の{映画時代}主催講演会に、久米正雄・森岩雄・直木三十五・横光利一・古川緑波らと登壇、
「彼をめぐる五人の女」などで好評を得るが、山田との関係が活動に支障を来たすようになり、「椿姫」撮影中の相手役竹内良一と失脚、{日活}を解雇されて結婚。劇壇から追放された状態のなか、根岸寛一の支援で(岡田嘉子一座)を旗揚げした直後、長く病床にあった母が死去。

世界恐慌・・・1929＝27歳：

_大阪の(松竹)で「道頓堀行進曲」を公演して大ヒット、各地を巡業後、

満州事変・・・1931＝29歳：

国際連盟脱退1933＝31歳：

{日活}の借金を肩代わりしてくれることになった(松竹)に入社、「乳姉妹」で映画界に復帰、舞台にも出演。小津安二郎監督「東京の女」、

帝人疑獄事件1934＝32歳：

芥川直木賞始1935＝33歳：

二二六事件・1936＝34歳：

島津保次郎監督「隣の八重ちゃん」。父が死去、_やさしい竹内が酒を飲むと横暴になるのに耐えられず、
_小津安二郎監督「東京の宿」などに出演するが、意を得ず、当局の検閲も厳しくなって不満がたまり、
_*井上正夫の{演劇道場}に参加、竹内と別居後に、出獄して参加してきた演出家杉本良吉を知って、意気投合、日華事変でファシストの風潮が強くなり、影響が芝居の世界にも出て来たため、2人で逃亡を決意、

日中戦争始・1937＝35歳：

健保+総動員 1938＝36歳：

_国境を見たいと警備隊を騙して樺太国境を越え、ソ連に入る。スパイ容疑で逮捕拘禁、2人は分離され、ロシア語も全く分からずに心細い生活をするうち、
_杉本が前年に肺炎で死去(実は銃殺刑)したことを聞かされる。モスクワ行きを希望して、近くのチカロフ市の独り者の老婦人のもとに預けられ、肖像画を描いて近所の人たち喜ばれ、ロシア語を教えられたり、日本語を教えたり、少しわかるようになったロシア語の戯曲の本を読んで独居的生活を紛らすうち、看護婦見習として病院に勤務ができるようになり、独ソ戦で疎開してきた日本語を学んだニーナと知り合う。この間、スターリンへの嘆願書を出し続けるうち、

日米開戦・・・1941＝39歳：

敗戦・・・1945＝43歳：

新憲法施行・1947＝45歳：

極東裁判判決・1948＝46歳：

<第二次世界大戦>が終結したことから、
_モスクワ入りが許可され、病院を退職、ニーナの斡旋で外国文学図書出版所の日本文学部に席を置き、
_先輩日本人の紹介で、モスクワ放送にアナウンサーとして就職、対日ラジオ放送のアナウンサーとなる。
_捕虜としてシベリアに抑留さ、ソ連在住を決めてハバロフスクで放送局のアナウンサーとなっていた滝口新太郎が、井上正夫の弟子でかつて舞台をともにしたこともあることから、突然手紙送って寄越し、
_放送局の後押しもあって、モスクワに転勤してきた滝口と結婚、以後、おしどり夫婦となる。

朝鮮戦争始・1950＝48歳：

独立回復・・・1951＝49歳：

_ソ連の国籍を取得。
_演劇をめざす夢が復活、夫より多かった収入が断たれるも、夫の励ましと大山郁夫の推薦で、
_ルナチャルスキー国立演劇大学演出学部は無試験で入学。この年、健在なことが日本に知られる。

55年体制始・1955＝53歳：

国連加盟・・・1956＝54歳：

_好成績を通し、
_「死せる魂」の老婆役で評判を得、
_卒業公演に森本薫の「女の一生」演出を取り上げ、{文学座}からの装置支援を受けて、大成功、
_マヤコフスキー劇場の優秀助監督賞を受賞。
_モスクワのゴーリキー撮影所で映画「一万人の子供たち」を制作し、主役として出演。
_この間、日本では国をあげて帰国が働きかけられるが、

インスタントメン・1958＝56歳：

美智子妃・・・1959＝57歳：

安保闘争・・・1960＝58歳：

タイタイ病始・1961＝59歳：

大学紛争始・1965＝63歳：

ド・ルシヨック・・・1971＝69歳：

日中国交回復1972＝70歳：

石油ショック1973＝71歳：

角栄金脈辞任1974＝72歳：

_夫滝口が死去した年、ようやく働きかけが実って、
_*功労年金を受けることになって劇場勤務を辞め、夫の遺骨を抱いて34年ぶりに里帰りをする。
_自伝「悔いなき命を」を著し、越境の真相などを告白。
_文化使節として再来日し、以後12年日本に滞在して、

田中角栄逮捕1976＝74歳：映画「男はつらいよ夕焼け小焼け」

成田衝突・・・1978＝76歳：映画「オレンジロード急行」などにも出演した。

_演出・舞台出演などを行ない、

中曽根内閣・1982＝80歳：

ドイツ・ユーラト・1983＝81歳：

バブル始・・・1986＝84歳：

バブル崩壊・1992＝90歳：

*ソ連に帰国、以後、その地に留まり、
_モスクワの自宅で、没した。

シリーズ「人間の記録」、「この人どんな人」、「日本の女性」、